

幾代会観察会(2021年7月)のまとめ

- ◆日時 2021. 7. 11 (日)
- ◆散策場所 あきる野市 都立小峰公園
- ◆ポイント ヤマユリとハンゲショウの観察
- ◆散策ルート 武蔵五日市駅～①小峰公園ビジターセンター～②サインポスト12～③桜辻～④桜尾根～⑤ふれあい広場～⑥民家風休憩舎(昼食)～⑦ひのき広場～⑧杉の木広場～⑨サインポスト1～武蔵五日市駅
- ◆参加者 太田・須崎・中部・羽深・越前(記録)5名 下見7月8日2名



散策ルートマップ

◆感想

7月の幾代会はあきる野市の都立小峰公園で咲き始めのヤマユリと水辺の植物・ハンゲショウを観察してきました。3日前の下見時には蕾だったヤマユリが桜尾根や雑木林で嬉しいことに香りと共に大輪の花が咲き出していました。ハンゲショウは田植えを終えトンボが飛び交う田んぼの畔で花穂を持ち上げていました。何時もながら元気な太田さんに気の利く須崎さんに羽深さんや中部さんと楽しい初夏の観察をすることが出来て良かったです。昼食時には4年間続けてきた幾代会のホームページをオープンにすることやスライド写真

の提供をお願いしました。

●ヤマユリ



大きい花は直径が20cmにも及ぶ大輪で、虫を誘う6本の黄色の蜜票と赤い付点がある。付点は模様ではなく突起で訪虫するカラスアゲハやスズメガが足場にして蜜を吸う。ヤマユリは球根と種とWで子孫を増やすことが出来る。イノシシ等に球根を食べられたら残った鱗片から芽が出るが、もし親に病気が有れば感染している。翼の有る薄ぺらい数百の種は遠くに飛べるが花を付けるまでに5年間ほど必要。

ヤマユリは群生というより草原にぽつりぽつりと下向きに咲く。

一輪咲いていても甘い香りが辺り一面に漂い、咲き始めと夜に強い香りを放つ。

●ハンゲショウ

花が咲くときに葉が半分白くなるので別名がカタシログサ。花穂に着く小花は花弁が無く、雄蕊が6-7本で太い雌蕊の先が3~5裂する。花が目立たないので上部の葉が虫を呼びよせるために白くなる。ハンゲショウが白く成らないのは暗いか乾いていて蕾が付かないから。葉が白く成るのは葉緑素を作らないため花が終わる8月下旬には白い部分も葉緑素を作り緑の葉に成る。ハンゲショウは清楚でおとなしい花ですが凜として生け花に合う。





●散策路の野草

梅雨末期の不安定な天候とコロナが心配されましたが、武蔵五日市駅に10時に集合、いざ観察地の小峰公園へ裏道を通りルンルンと向かいました。途中、こっこっこっ〜と賑やかな養鶏上の前で直径30cぐらいも有るような大きなナツメの木に5mmぐらいの小さな黄色い花。参加出来なかったUさん宅のナツメも花が咲いているかな〜「それにしても鶏は狭いゲージに入れられて人間のために卵を産み続けで可愛そう！」とOさん。



最後の四差路の角には直径50cぐらいも有りそうなムクロジのちょっとした巨樹。ガサガサと剥がれ落ちそうな幹に羽状複葉の葉を目いっぱい広げていた。秋には羽根つきに使う黒い実が道路いっぱいにコロコロ、コロコロと落ちることと思います。

つるべ井戸やモミジの有る旧家を左折すると目的地の小峰公園に30分ぐらいで到着。まずはビジターセンターで、トイレを済ませ準備万端。クーラーの利いた室内は居心地が良く、展示ホールで何気に夏の野草の予習です。

秋川街道側から園内の散策コースに入ると、樹幹の上の方で白くて円錐状の花を咲かせたりョウブの花が目に入った。梅の公園にもリョウブは多く生えているが、直根が無く、根が浅いので表層の栄養を取るには効率的だが体を支えるには不向き。でも根元に休眠状態の不定芽が有り、倒れたり伐採されると再生できる力が有る。植物は本当にたくましいですね



その隣にはマルバアオダモが2cぐらいの薄っぺらな実をたれ下げていた。

「葉っぱが丸くないよ」とNさん。良く似たアオダモは葉に鋸歯が有り、マルバアオダモには鋸歯が有りません。

ヒヨドリバナ、ヤマユリ、オオバギボウシが咲く日陰の散策路を庚申塔が有る桜辻まで仲良くハイキング気分。咲き始めのヤマユリを眺めて説明。



陽当たりの良い桜辻にはニョキニョキとワラビが生えていて思わずプツプツとマメなSさん。私の嬉しい夕飯に提供して貰いました。

ふれあい広場に向かう下りの散策路には名残のアジサイやオオバギボウシが両側に植栽されてバージンロードのよう。ところどころから薄紫のアキノタムラソウやオレンジのヤブカンゾウが蕾をもたげアジサイとバトンタッチです。

民家風休憩舎で早めのお昼。「此処のトイレが綺麗に成ったのよ」アチコチ出かけて情報通のOさん。久しぶりのお弁当を食べると話題は終わったばかりの都議会選。森村候補と山崎候補の比較です。「島崎議員が山崎さんを推すようではだめだ」とNさん。

昼食後は谷戸田の先のヒノキ広場まで行き、田植えが終わった畔でハンゲショウの説明。トンボが飛び交い元気なチビツ子が網を持って水中の虫を取る姿に癒されながら杉の木広場へ。再び竹やぶも有る雑木林をグル〜っと一回りした。公園で設置した囲いのそばには小峰公園の眼玉であるセリバオウレンが多数、見られた。ふれあい広場ではコブシの実がこぶしに成り、シンボルツリー的な枝を横に広げたネムノキが花を咲きだしていました。ピン





クの細い無数の毛は雄蕊で根元が白く毛先がピンクで先端に黄色の葯が有る。良く見ると中に雄蕊に混じって白い雌蕊が見える。先ほどのヤマユリのように昆虫が止まる足場が無いので、ホバリングが出来るスズメガが蜜を吸いにくる。

天気予報通りゴロゴロ

と空が危なく成り、「チョット早めだけど帰ろうか」小峰公園の出口ではハート型の葉に爽やかなライトグリーンの花穂を付けたナンキンハゼが「また来てね」とお辞儀をする。「え～～え、元気に又来ますよ。」

帰路では民家の庭先に目の高さでモッコクの薄黄色の花を観察。「モッコクの枝はミツマタのようで面白いですね」と S さん。雨に降られず武蔵五日市駅までたどり着くと昔ながらなじみの有る半球状の咲き始めの真っ赤なダリア。「昔からの花は落ち着きますね」と、誰からともなく一言。「さあ～～着いたぞ。」駅での終わりのご挨拶で「初めてだったけど良かったよ」と H さん。「疲れた」と N さん。電車の待ち時間を利用して駅のコンビニでアイスか生ビールで疲れを取りました。「美味しい～涼しい～～」思わずにっこりと笑顔がこぼれます。

7 月の観察会は小峰公園で林と野と水辺の植物のたくましい生きざまを観察できました。

そしてホット出来る里山の風景に癒されました。



8 月は広報おうめに参加者の募集を掲載して貰い日向和田から宮ノ平までカゴノキとシダレイトスギを観察しますので、参加をお願いします。（越前記）